

平成30年度 都立八王子東高等学校経営計画

東京都立八王子東高等学校長

宮本久也

1 目指す学校像

「変化するグローバル社会において活躍できる生徒の育成」

本校の教育が目指すところは、将来わが国を背負って立つ有為なリーダーの育成です。高い学力を備えるとともに、健康で良識あふれる人材の育成を目指しています。

生徒には常に高い志をもたせ、難関国公立大学等への進学実績を着実に伸ばすよう努めています。さらに教職員全員が一つのチームとなって、本校の特色である学校に軸足を置いた学習指導・進路指導を一層充実させ、進学指導重点校として、都民の高い期待に応える学校を目指します。

2 中期的目標と方策

- 進学指導重点校として、組織的な進路指導、学習指導を実現することにより、難関国公立大学等の受験者数及び合格者数の増大と安定化及び、推薦選抜に対応できる生徒の育成を図ります。
- 探究的な学習活動を実践するために、教育課程の編成や大学等との連携を進めていきます。
- 理数研究校として、文理を問わず、生徒の知的探究心を刺激するための取組を一層充実させ、将来、科学技術等の分野で活躍できる人材を育成します。
- 英語教育推進校として、オンライン英会話等を活用し、英語4技能の育成に重点を置いたきめ細かい指導等を実施し、生徒の「使える英語力」を向上させていきます。
- 入学後の早い時期から生徒に高い進路志望を意識させ、将来にわたって自ら学ぶ意欲を継続発展させるためのキャリア指導の充実と定着を図ります。
- 生徒の主体性を尊重した学校行事や部活動を奨励し、学業との両立を前提に、限られた時間の中で最大限の成果を発揮できるよう支援を行います。
- 社会人として守るべきルールやマナーに関する生活指導や道徳教育を充実させるとともに、主権者教育を推進し、社会に貢献できる公共心を備えた有為な人材を育成します。
- 生徒同士が互いの個性を尊重し合い、互いに高め合う、いじめ・体罰のない学校が実現するように、アンケートや聞き取り等を実施することにより、未然防止・早期発見・早期対応に取り組み、教職員・生徒・保護者が安全な学校作りに向けて共有できる環境を目指します。また、生徒に応じた教育相談体制を充実させるとともに、自殺予防等生命尊重や特別支援教育についても計画的に推進していきます。
- ホームページやTwitterの運用を有効活用し、日常の教育活動等の情報をタイムリーに発信し、本校の良さを積極的にPRすることにより入学志望者の増大を図ります。

3 今年度の取組目標と方策

(1) 教育活動の目標と方策

① 学習指導

アクティブ・ラーニングを推進し、生徒の探究活動や主体的な深い学びを促す工夫を一層充実させるとともに、家庭での予習・復習が必須となるような授業を行います。全ての生徒が全ての教科・科目に全力で取り組むように指導を行い、大学入試センター試験で9割以上の得点が取れる水準の授業を目指します。また、上位層の生徒には、難関国公立大学の入試問題にも対応できる実力を身に付けさせます。理数研究校として、生徒の科学的探究心を刺激するための様々な取組を推進していきます。

② 進路指導

進学指導重点校として都民の高い期待に応えるため、入学時から、難関国公立大学等の合格を目標とさせ、最後までセンター試験フル型の学習を継続するようあきらめない指導を継続します。3年間の進路指導計画を全教職員で共有するとともに、学年担任団と教科担当が十分な情報共有を図りながら、生徒の高い進路志望を実現させます。

③ 募集・広報活動

ホームページやTwitterの運用を活用して、最新の学校情報を適切にアップするとともに、生徒の学校生活の成果を積極的に中学生や保護者、さらには広く都民に本校の魅力を発信して、募集・広報活動を活性化します。また、総務部と募集対策会議が連携して、各種学校説明会・グループ作成問題説明会等を充実させ、入学選抜における応募倍率を高めます。

④ 生活指導

基本的な生活習慣を確立させるとともに、個性や適性に応じて自分の能力を最大限に発揮し、真に社会人として自立した人間に育成するとともに自立した人間に育成することを目指し、社会人として守るべき基本的なルールやマナーについての指導を全教職員が継続的に行い、良識ある行動ができる生徒を育成します。いじめ・体罰を許さない校内の雰囲気や教職員・生徒・保護者で共有し、多様な価値観を認め合う指導を行うことで、安全な学校生活を送ることができるようになります。

⑤ 特別活動・部活動

限られた時間の中で、学校行事や部活動にも積極的に取り組ませ、他者との協働や帰属意識、成功体験を身に付けさせます。また、生徒会活動や委員会活動、HR活動を一層充実させ、自他の個性を尊重し、互いに高め合う集団づくりを重視します。探究的な学習活動や取組を通して各種コンテスト等への参加・入賞を目指すとともに、論理的思考力を育む言語活動の充実にも努めます。防災教育の充実に向けて、地域との交流・近隣小中学校との連携等にも取り組みます。

⑥ 心身の健康づくり

生徒の心身にわたる健康・安全について、全教職員による指導協力体制を確立し、生徒の体力向上と心身の健康づくりを充実させます。また、教育におけるユニバーサルデザインを進めるとともに学校全体の保健相談・カウンセリング体制の充実を図るとともに発達障害等に関する知識を全教職員が共有し、個別案件に対して適切な対応がとれる特別支援教育体制を整備します。また、自殺予防に関する取

組もそしきてきに推進していく。

⑦ 学校経営・組織体制

常に教職員のベクトルを揃えられるよう、企画調整会議・各分掌部会・学年会・教科会・教科主任会等において円滑に意見交換できる環境を整えます。また、PTA・後援会・同窓会とも連携し、校内の教育環境を整備します。経営企画室は、経営目標を見据えた学校予算の編成と適正な事務執行を行うとともに、企画型・経営参画型の運営を目指します。

⑧ 健康で明るい職場づくり

所属教職員の心身にわたる健康状態に気を配り、何でも相談でき、何でも言い合える明るい職場風土の形成に努めていきます。全教職員が協力・協働して行動できるように、組織的な対応に努め、個人に責任が集中しないような職場づくりを目指します。また、ライフ・ワーク・バランスの視点から業務内容の精選を行います。

(2) 重点目標<本年度の数値目標>

- ① 難関国公立大学(東大・京大・一橋大・東工大・医学部医学科)現役合格者数15名以上
(H27実績7名、H28実績10名、H29実績13名)
- ② 国公立大学現役合格者数 120名以上
(H27実績111名、H28実績120名、H29実績113名)
- ③ センター試験受験者のうちフル型受験者数 240名以上
(H27実績236名、H28実績237名、H29実績231名)
- ④ センター試験(5教科7科目型)全国平均上回り率1.25以上の得点者 75名以上
(H27実績63名、H28実績72名、H29実績64名)
- ⑤ 入学者選抜の最終応募倍率 推薦:3.2倍、一般:1.5倍
(H27実績2.49倍・1.48倍、H28実績2.51倍・1.36倍、H29実績2.74倍・1.54倍)

(3) 重点目標達成のための具体的方策

- ① 教科担当者全員が教科の指導目標、指導計画を共有し、学校全体で生徒一人一人の学力向上を図る体制を整えます。教員相互の授業参観や生徒による授業評価等を有効に活用し、日々の授業を充実・改善していきます。
- ② 進路説明会や進路検討会等を通して、全教職員が共通認識をもって進路指導に取り組める体制を整えます。保護者会や三者面談等を有効に活用し、各家庭と十分な連携を図りながら、生徒の高い進路希望を実現します。
- ③ 理数研究校としての取組の周知をより積極的に行い、募集活動に適切に反映させます。八王子地区・日野地区に加え、府中調布地区・町田地区・青梅地区等を重点地域としてポイントを絞った広報活動を展開します。体験授業等を充実させることにより、小中学生への広報活動を充実させます。ホームページについては更新回数・内容のより一層の充実を図ります。
- ④ 通学時の交通マナーや自転車走行については、集会やHRを活用して、継続的な指導を行うとともに

に、全校体制での指導を充実させます。いじめ・体罰のない環境を継続するために、生徒集会・保護者会等で十分な周知を図り、教職員だけでなく部活動指導者等にも指導の在り方についての注意喚起を徹底します。

- ⑤ 決められた時間内で効果的な部活動ができるように工夫するとともに、生徒に考えさせる場として、部長会を充実させます。生徒会や委員会の活動を支援するために、生徒と教員の意見交換の場を設定します。理系の部活動を奨励するとともに、高大接続による取組も支援します。国際交流の面では、オリンピック・パラリンピック教育とも絡めた台湾・高雄高級中學との交流活動を促進します。
- ⑥ スクールカウンセラーとの連携を強化し、年3回の校内研修を活用して、学校としての教育相談力を向上させます。特別支援コーディネーターの周知を図り、発達障害等の生徒に対して、個別の指導計画を立てて支援していきます。また、生命尊重教育を行い、自殺予防を組織的に取り組みます。
- ⑦ 各分掌・教科での検討とともに、探究部や必要に応じてプロジェクトチームを設置して探究コースの設置に向けた教育課程や校内体制の整備を推進していきます。また、PTA・同窓会・後援会との連携を図り、生徒の高い志を実現するために必要な教育環境の整備を進めていきます。経営参画型の経営企画室運営につとめ、全教職員が一体感をもった学校運営を行います。
- ⑧ ライフ・ワーク・バランスの視点から特定の個人に業務が集中しないように配慮し、学校環境の改善に努めます。予算の適正配分を図ることにより、学習環境の整備に努めます。